

学習・教育到達目標の評価法設計に関するワークショップ  
ーPBLを用いたエンジニアリング・デザイン能力の育成に焦点を当ててー

1. 開催の趣旨：高等教育に対し、国・社会から下記のような要求があげられています。
- 想定外の事態に遭遇した時に、そこに存在する問題を発見し、解決するための道筋を見定める能力を持った学生が社会及び企業から求められている。
  - 学生の主体的学びのための学修時間が不足している。
  - 社会人として必要な能力を有する人材を育成するため、大学は教育内容を充実し、学生が徹底して学ぶことのできる環境を整備する必要がある。

このような要求を背景として、文科省がH26年度募集を公表した「大学教育再生加速プログラム（通称AP）」では、

- (1) 全学的教学マネジメント改善（学生の学修時間の確保・増加、学習成果の可視化、教育課程の体系化、組織的教育の確立）
- (2) 教育方法の質的転換（学生の能動的な活動を取り入れた授業や学習法（アクティブ・ラーニング）、双方向の授業展開）

などの、国の教育再生実行会議の第三次提言「これからの大学教育等の在り方について」に沿った取り組みを行なう大学を重点的に支援する、と述べています。

これら(1),(2)は、JABEEが認定審査の場でこれまで各大学に求めてきた、下記の2項の実質化により、初めて実現することができます。

- (1) 社会で適切な水準で業務を実践できる技術者となるために、卒業時点で身につけているべき知識・能力として、専門的知識だけでなく、問題解決、コミュニケーション、チーム活動・・・などの人間的スキル・能力をまとめた、学習・教育到達目標の設定とその達成を軸とした、教育の質保証・向上のためのPDCAサイクルの構築と、
- (2) このような学習・教育到達目標に掲げられた社会人として必要な能力を育成するために必須の、エンジニアリング・デザイン教育の実施

このようなPDCAサイクルの構築によって教育の質を保証・向上させるためには、それに必要なツールを整備し、関係する教員がその目的を共有しながらこれらを使いこなしていることが必要です。ここで、PDCAサイクルの構築に必要なツールとは、PDCAサイクルの各フェーズで必要となる下記の4つのツールです。

P:内容と水準が明確な学習・教育到達目標

D:目標を達成することのできる科目群をまとめたカリキュラム、シラバス、授業方法

C:目標達成度を定量的に評価できる評価法

A:評価結果に基づいて教育プログラム全体を改善する仕組み

JABEEと日本工学教育協会（日工教）共催で開催している本ワークショップシリーズは、昨年度より、このようなツールの普及を通して、高等教育の質の保証・向上を目指しています。本年度は昨年11月に目標設定法、本年3月に評価法設定法の2回のワークショップを開催することといたしました。11月のワークショップでは、一昨年度のワシントン協定によるJABEEの継続審査で、日本のチームワーク力育成教育には多様性が不足している、との指摘があったことを受けて、「チームワーク力」教育をテーマに、学習・教育到達目標の設定に

ついて学んでいただきました。

今回の本年度第2回のワークショップでは、エンジニアリング・デザイン教育の中核をなすPBL科目を対象として、学習・教育到達目標の達成度評価法について学んでいただくことを計画しております。この中では、「発展途上国の山間の村での畑への給水問題」をテーマに、PBL (Project Based Learning) 科目の組み立て方、PBLの学習・教育到達目標とその評価用の行動特性の設定、これらの目標評価用の行動特性の各項目を、科目の中のどの時点でだれが何を対象として評価するのか、またその評価時の基準であるルーブリックをどのように設計すればよいか、などについて教材を基にグループ活動で考え、学んでいただきます。

適切な学習・教育到達目標の設定とその達成度評価は、JABEEの認定審査において最も重視している内容であり、また各教育プログラムにとってその設定・運用に苦勞されておられる内容でもあります。各大学で教育改善に努力されておられる方々の、積極的なご参加をお待ち申し上げております。

2. **開催日時**：2014年3月29日（土）10：00～18：00
3. **会場**：東京電機大学 東京千住キャンパス1号館2階 1205教室, 1206教室  
<http://web.dendai.ac.jp/access/tokyosenju.html>
4. **プログラム**：別紙1
5. **主催**：一般社団法人日本技術者教育認定機構(JABEE)、公益社団法人日本工学教育協会  
〈共催〉
6. **後援**：文部科学省、経済産業省（予定）
7. **募集人員**：70名（先着順受付）
8. **申込方法**：JABEEのWebサイトに掲載してある申込書にご記入の上、[regist@jabee.org](mailto:regist@jabee.org)までご送付ください。
9. **申込期限**：2014年3月20日（木）（期限厳守）
10. **参加費**：2万円（教材資料・昼食込み）  
ただし、下記のいずれかに該当する方は1万5千円
  - ・JABEE認定継続中のプログラムからの出席者
  - ・JABEE正会員である学協会<sup>(注)</sup>の個人正会員  
(注) <http://www.jabee.org/outline/member/> の社員名簿にある学協会
  - ・日工教の個人正会員
11. **支払方法**：事前振り込み 又は 当日現金支払い（領収書渡し）  
**【振込先】**  
みずほ銀行芝支店 普通預金口座  
口座番号：3667607  
口座名義：一般社団法人日本技術者教育認定機構  
シャニホンギンジュツシャキョウイクニテイコウ  
※できるだけ事前振り込みをご利用願います。
12. **連絡先**：JABEE事務局 ([regist@jabee.org](mailto:regist@jabee.org) ; 03-5439-5031)  
日工教事務局 ([tsukuno@jsee.or.jp](mailto:tsukuno@jsee.or.jp) ; 03-5442-1021)

以上

JABEE-日工教共催「国際的に通用する技術者教育ワークショップシリーズ 第3回」  
学習・教育到達目標の評価法設計に関するワークショップ  
ーPBLを用いたエンジニアリング・デザイン能力の育成に焦点を当ててー

【プログラム】

- 9:30 受付開始 指定座席（4人ずつのグループ）に着席  
10:00 主催者挨拶  
10:05 「エンジニアリング・デザイン教育について」の講義  
大阪大学名誉教授 大中逸雄

「発展途上国の山間の村での畑への給水問題」に関する例題PBLを対象としたグループワーク  
司会：東京電機大学 特別専任教授 工藤一彦

- 10:30 ・自己紹介（アイスブレイク）  
10:50 「PBLにおける学習到達度の評価法」の講義  
11:30 ・資料学習（本日のワークショップでやることをグループメンバーで確認し、  
事前に学んで来たこと、疑問点等をメンバー内で討論・共有する）  
・目標評価項目としての各行動特性の評価対象、評価時期、評価者を表3（WS教材）  
のシラバスに記入  
12:30 昼食  
13:10 全体討議 午前中の作業の報告と共有（4件程度の発表と講評）  
14:10 「ルーブリックのつくりかた」の講義  
14:50 ・行動特性評価用のルーブリック作成  
16:30 全体討議 ルーブリックの内容（4件程度の発表と講評）  
17:30 総括・質疑応答  
18:00 終了

ファシリテータ

大中逸雄(大阪大学[名誉教授])、笥 捷彦(早稲田大学)、工藤一彦(東京電機大学)、三木  
哲也(電気通信大学)、他

注：※開始、終了時間以外の途中の時間は多少前後する可能性があります。

※都合により時間が一部変更になることがありますので予めご了承ください。

※グループワーク題材につきましては、参加者には事前にファイルをお送りしますので、一  
読され、「Ⅲ. 本研修でやること」について腹案を考えてきて下さい。その際に生じた疑問  
点はメモして、当日のグループワークの際にグループのメンバーおよびファシリテータに  
質問してください。

※プロジェクターで発表いただく予定ですので、パソコンを持参して頂ければ幸甚です。

(参加者に配布の教材)

1. 研修で対象とするPBLとその教育目標（ワークショップの題材）
2. 学習教育到達目標の達成度評価法（1）：PBLにおける学習到達度の評価法（解説）
3. 学習教育到達目標の達成度評価法（2）：ルーブリックのつくりかた（解説）
4. VALUEルーブリック和訳（参照用ルーブリック：資料）
5. 学習・教育に関する達成目標の評価方法（解説）

以上